



プランオブジェクトについて

Cisco Crosswork Planning ネットワークは、ノード（ルータを表す）、インターフェイス、回線、SRLG、LSP、ポート、ポート回線などのオブジェクトで構成されます。サイトもオブジェクトであり、サイト内のノードをグループ化したり、場合によってはサイト内のサイトをグループ化することによって、ネットワークの可視化を簡素化するためのCisco Crosswork Planning の構成要素です。

ほとんどのオブジェクトがネットワークプロットに表示され、すべてのオブジェクトが右側の [ネットワークサマリー (Network Summary)] テーブルに表示されます。それらには、それらを識別および定義する「プロパティ」があり、その多くが検出されます。それらを手動で追加および変更することもできます。たとえば、すべての回線に、編集可能な検出済みの [キャパシティ (Capacity)] プロパティがあります。その他のプロパティは導出されます。たとえば、[シミュレートされたキャパシティ (Capacity sim)] は [キャパシティ (Capacity)] プロパティから導出されます。別の例として、インターフェイスには、シミュレートされたトラフィックが使用している [シミュレートされたキャパシティ (Capacity sim)] のパーセンテージを識別する [シミュレートされた使用率 (Util sim)] プロパティがあります。プロパティは、[編集 (Edit)] ウィンドウで表示および編集できます。これらは、オブジェクトのテーブルの列、または関連するオブジェクトのテーブルのエントリによって表されます。

Cisco Crosswork Planning には、オブジェクトを含むレイヤ 3 (L3) ビューがあります。このガイドでは、「ノード」および「回線」という用語は、L3 ビュー内のオブジェクトを指します。

ここでは、これらの基本的なオブジェクトとその関係、およびそれらを作成、編集、および削除する方法について説明します。

- [ノードとサイト, on page 1](#)
- [回路とインターフェイス, on page 6](#)
- [SRLG, on page 7](#)
- [ポート、ポート回線、およびLAG, on page 9](#)
- [オブジェクトに関する実行できる主な操作, on page 12](#)

ノードとサイト

「ノード」と「サイト」は、どちらも Cisco Crosswork Planning の用語です。

親拠点と含まれるオブジェクト

- ノード：ネットワーク内のデバイス。物理、PSN（擬似ノード）、または仮想の3つのタイプのいずれかです。[タイプ (Type)] プロパティは、ノードが実際のデバイスを表すのか、抽象化されたもの（ネットワークに同じ方法で接続された複数のエッジノードを表す単一のノードなど）を表すのかを区別します。物理ノードは、レイヤ3デバイスまたはルータです。物理ノードと仮想ノードは、Cisco Crosswork Planning 内で同じように動作します。擬似ノード (PSN) は、通常、レイヤ2デバイスまたはLANを表すために使用されます。

ノードは、サイトの内部と外部の両方に配置できます。外部への配置は、ルータが地理的に分散していない小規模なネットワークに役立つ場合があります。

- サイト：サイトの階層を形成する可能性のあるノードやその他のサイトの集合。他のサイトを含むサイトは「親」サイトと呼ばれます。

ノードとサイトの両方に、シミュレートされたトラフィックがありますが、ノードには、測定されたトラフィックもあります。

- ノードは青色のルータアイコン (2) で表示されます。境界線の色は、ノードから送信されるトラフィックと、ノードに送信されるトラフィックを示します。薄い青色の輪郭線は、ノードが選択されていることを示します。詳細については、ネットワークプロットの≡アイコンをクリックしてください。
- サイトは青色の円 (3) で表示されます。境界線の色は、サイトに含まれるすべてのノードおよび回線（ネストされたすべてのノードおよび回線を含む）のトラフィック使用率を示します。薄い青色の輪郭線は、サイトが選択されていることを示します。円内の数字は、サイトに含まれるノードの数を示します。詳細については、ネットワークプロットの≡アイコンをクリックしてください。

サイトにはL3ノードを含めることができます。空のサイトとL3ノードを含むサイトは、L3ビューに表示されます。

親拠点と含まれるオブジェクト

サイトが空でない限り、サイトに含まれるサイトおよびノードの階層が存在します。サイトは、親サイトと子サイトのどちらにでもなれます。別のサイトが含まれているサイトは、「親」サイトです。親サイト内のノード、サイト、または回線は、「含まれている」（「ネストされた」）オブジェクトです。含まれているノードおよびサイトは、「子」とも呼ばれます。多くの場合、子ノードおよびサイトは地理的に同じ場所にあります。たとえば、サイトは、ルータが存在するPoPである場合があります。

- サイトの[親サイト (Parent site)] プロパティは、それが別のサイト内にネストされているかどうかを定義します。空の場合、そのサイトはネストされていません。
- ネットワークプロットでは、親サイトに、そこに含まれるすべてのノードの、すべての出口サイト間インターフェイスが表示されます（ノードのネストの深さは関係しない）。同様に、これは、それに含まれる各子サイトプロットにも当てはまります。

- ネットワークプロットからサイトを選択しても、その下のサイトまたはノードは選択されません。

拠点の削除

ネットワークプロットからサイトを選択しても、サイトを削除する場合を除き、その下のサイトまたはノードは選択されません。その場合、サイト内のすべてのオブジェクトが削除対象として選択されます。ただし、表示される確認では、含まれているサイトおよびノードを保持するオプションがあります。オンにすると、そのサイトに直接含まれているオブジェクトは、削除されるサイトと同じレベルになるように移動されます。より深くネストされた他のオブジェクトは、親関係が維持されます。

PSN ノード

Cisco Crosswork Planning のネットワークモデルには、[タイプ (Type)] プロパティが「psn」のノードを含めることができます。これらのノードは擬似ノード (PSN) を表し、複数のルータを接続する LAN またはスイッチをモデル化するために使用されます。これらは、IGP モデリングと BGP ピアモデリングの 2 つの状況で使用されます。

IGP ネットワークでは、複数のルータを相互接続する LAN は PSN ノードによって表され、各ノードに接続される回線は相互接続されたルータを表します。OSPF と IS-IS の両方に組み込みシステムがあり、このシステムによって、その LAN 上のルータの 1 つが、OSPF の場合は指定ルータ (DR) 、IS-IS の場合は指定中継システム (DIS) になります。PSN ノードは、この指定ルータにちなんで命名されます。Cisco Crosswork Planning は、IGP 検出中に自動的に、[タイプ (Type)] プロパティが [PSN] のノードを作成します。

BGP ピアが検出されると、Cisco Crosswork Planning は、ルータが、单一のインターフェイスを使用して複数のピアに接続されていることを検出する場合があります。これは、スイッチドインターネットエクスチェンジポイント (IXP) で一般的です。その後、Cisco Crosswork Planning は、[タイプ (Type)] プロパティが [PSN] のノードを作成し、すべてのピアをそのノードのそれぞれ異なるインターフェイスに接続します。

[タイプ (Type)] プロパティが [PSN] のノードを使用する場合は、次のようないくつかの考慮事項がいくつかあります。

- 2 つの PSN を回線で接続することはできません。
- Cisco Crosswork Planning によって PSN ノードが作成された場合は、指定ルータのノード名の前に「psn」が付加されます。
- デマンドメッシュを作成する場合、Cisco Crosswork Planning は、[タイプ (Type)] が [psn] のノードを送信元または接続先とするデマンドを作成しません。これは、手動でのデマンド作成では可能ですが、推奨されません。Cisco Crosswork Planning は、[タイプ (Type)] が [psn] のノードからのすべての出力インターフェイスに関する IGP メトリックをゼロに設定します。これにより、ルート内に PSN が存在しても、パスの IGP 長が増加することはありません。

ノードおよび拠点の作成

ノードの作成

ノードを作成するには、[オブジェクトの作成](#), on page 12の手順に従います。この場合、オブジェクトは[ノード (Node)]です。

次に、頻繁に使用されるフィールドの一部とその説明を示します。

- [名前 (Name)] : ノードに必要な一意の名前。
- [IP アドレス (IP address)] : 多くの場合、ルータ ID に使用されるループバックアドレス。
- [サイト (Site)] : ノードが存在するサイトの名前。空のままの場合、ノードはネットワークプロットに存在します。これは、ノードの作成中にサイトを作成したり、ノードをサイト間で移動したり、サイトからノードを削除してネットワークプロットで独立させたりするための便利な方法を提供します。
- [AS] : このノードが存在する AS の名前。これにより、ルーティングポリシーが識別されます。BGP がシミュレートされていない場合は、空のままにすることができます。
- [BGP ID] : BGP に使用される IP アドレス。
- [機能 (Function)] : これがコアノードかエッジノードかを識別します。
- [タイプ (Type)] : ノードタイプ (物理、PSN、または仮想)。PSN ノードはレイヤ 2 デバイスまたは LAN を表すため、PSN 上のすべてのインターフェイスは、その IGP メトリックがゼロに設定される必要があります。2つの PSN ノードを相互に直接接続することはできません。ノードタイプを PSN に変更すると、Cisco Crosswork Planning は、関連付けられたインターフェイスの IGP メトリックを自動的にゼロに変更します。
- [経度と緯度 (Longitude and Latitude)] : ネットワークプロット内のノードの地理的な位置。これらの値は、地理的背景を使用する場合に関連します。

拠点の作成

サイトを作成するには、[オブジェクトの作成](#), on page 12の手順に従います。この場合、オブジェクトは[サイト (Site)]です。

次に、頻繁に使用されるフィールドの一部とその説明を示します。

- [名前 (Name)] : サイトの一意の名前。
- [表示名 (Display name)] : プロットに表示されるサイト名。このフィールドが空の場合は、[名前 (Name)] のエントリが使用されます。
- [親サイト (Parent site)] : このサイトを直接含むサイト。空の場合、このサイトは別のサイトに含まれていません。

- [位置 (Location)] : 都市のリストから位置を選択します。正しい地理的位置にサイトを自動的に配置し、[経度 (Longitude)] フィールドと [緯度 (Latitude)] フィールドを更新するには、空港コードを入力して Enter キーを押します。
- [経度と緯度 (Longitude and Latitude)] : ネットワークプロット内のサイトの地理的位置。これらの値は、地理的背景を使用する場合に関連します。

ノードのマージ

実際のネットワークトポジには、多くの場合、同じ方法でネットワークに接続された多数のノード（通常、エッジノード）があります。たとえば、すべてが同じコアノードまたはコアノードペアに接続されている場合があります。ネットワークコアのプランニングと設計では、これらの物理ノードを単一の仮想ノードにマージすることが望ましいことがあります。それにより、プランが簡素化され、実行される計算とシミュレーションが高速化されます。ノードをマージすると、視覚的な表現だけでなく、プラン自体が変更されることに注意してください。

新しくマージされたノードの名前は、サイト名、選択したノード名（ベースノード）に基づいたものにするか、新しいユーザー指定の名前にすることができます。ノードマージの効果は、次のとおりです。

- 他のノードからベースノードに回線が再接続されます。
- 他のノードに、または他のノードからベースノードに、デマンドが移動されます。
- 他のノードに、または他のノードからベースノードに、LSPが移動されます。
- ベースノードのトラフィック測定値が、選択されているノードの測定値の合計に設定されます。
- 他のノードが削除されます。

ノードをマージするには、次の手順を実行します。

Procedure

-
- ステップ1 プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#)を参照）。[ネットワーク設計 (Network Design)] ページに表示されます。
 - ステップ2 ツールバーから、[アクション (Actions)] > [イニシャライザ (Initializers)] > [ノードのマージ (Merge nodes)] の順に選択します。
 - ステップ3 [ノードのマージ (Merge Nodes)] ウィザードでマージするノードを選択します。ノードを選択しない場合、Cisco Crosswork Planning は、すべてのノードをマージします。
 - ステップ4 [次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ5 サイトごとにノードをマージするか、1つのノードにマージするかを選択します。

■ 回路とインターフェイス

- [サイトごとに個別にマージ (Separate merge per site)] : サイトごとにノードをマージします。たとえば、プラン内のすべてのノードを選択した場合、サイトごとに1つのノードにマージされます。新しいサフィックスを指定しない場合、デフォルト名はサイトと同じになります。
 - [すべてのノードをベースノードにマージ (Merge all nodes together into base node)] : 選択されたすべてのノードを1つのノードにマージします。たとえば、1つのサイトで2つのノードを選択し、別のサイトで3つのノードを選択した場合、ベースノードとして選択されたサイトとノードの組み合わせで1つのノードになります。
- 新しい名前を指定しない場合、デフォルトではベースノードの名前が使用されます。
- [ノードマージテーブル (Merge nodes table)] : <MergeNodes> テーブルを含むファイルに基づいてノードをマージします。このファイルは、ユーザー スペースまたはローカルマシンから選択できます。

ステップ6 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ7 ノードマージの効果のリストをプレビューします。問題がなければ、[マージ (Merge)] をクリックします。

回路とインターフェイス

Cisco Crosswork Planning では、インターフェイスは、個別の論理インターフェイスかLAG 論理インターフェイスのいずれかです。論理インターフェイスと物理インターフェイスの間に1対1のマッピングがある場合、インターフェイスにはレイヤ3プロパティ（メトリックなど）と物理プロパティ（キャパシティなど）の両方が含まれます。論理インターフェイスと物理インターフェイスの間に1対多のマッピングがある場合、インターフェイスは論理LAGであり、ポートはLAGの物理ポートとしてプランファイルに含まれます。ポートおよびポート回線の詳細については、[ポート、ポート回線、およびLAG, on page 9](#)を参照してください。

各回線は、2つの異なるノード上のインターフェイスペアを接続します。そのため、インターフェイスには常に回線が関連付けられています。[インターフェイスの編集 (Edit Interface)] ウィンドウと [回線の編集 (Edit Circuit)] ウィンドウの両方で、インターフェイスペアと回線のプロパティを同時に編集できます。

インターフェイスには、測定されたトラフィックとシミュレートされたトラフィックの両方があります。[回線 (Circuits)] テーブルに表示されるトラフィックは、2つのインターフェイスのトラフィックの上位になります。

回路およびインターフェイスの作成

回線を作成するには、[オブジェクトの作成, on page 12](#)の手順に従います。この場合、オブジェクトは [回線 (Circuit)] です。回線を作成すると、2つのインターフェイスも作成されます。

次に、頻繁に使用されるフィールドの一部を示します。

- [キャパシティ (Capacity)] : この回線が伝送できるトラフィックの総量。ドロップダウンリストには、最も広く使用されるキャパシティが選択肢として表示されます。

- [SRLG] : この回線が SRLG に属するようにする場合は、このリストから選択するか、[編集 (Edit)] をクリックして新しい回線を作成します。回線専用の SRLG の作成, on page 8を参照してください。
- [並列グループ名 (Parallel group name)] : この回線を新規または既存の並列グループに含めるには、その名前を入力します。
- [インターフェイスA (Interface A)] と [インターフェイスB (Interface B)] : 回線によって接続される 2 つのインターフェイスを指定する必要があります。

回線のマージ

同じ送信元および接続先エンドポイント（ノード）を持つ回線をマージすることで、プランを簡素化できます。この機能は、たとえば、複数の並列回線を無視してサイト間接続のみを対象とする長期的なキャパシティプランニングに役立ちます。

回線をマージすると、視覚的な表現だけでなく、ネットワークモデル自体が変更されます。

回線マージの効果は、次のとおりです。

- 基本回線キャパシティがキャパシティの合計に設定されます。
- 基本回線メトリックがメトリックの最小値に設定されます。
- 基本トラフィック測定値が測定値の合計に設定されます。
- 他の回線が削除されます。

回線をマージするには、次の手順を実行します。

Procedure

ステップ1 プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#)を参照）。[ネットワーク設計 (Network Design)] ページに表示されます。

ステップ2 ツールバーから、[アクション (Actions)] > [イニシャライザ (Initializers)] > [回線のマージ (Merge circuits)] の順に選択します。

ステップ3 同じ送信元および接続先エンドポイントを持つ回線を選択します。

ステップ4 回線マージの効果のリストをプレビューします。問題がなければ、[送信 (Submit)] をクリックします。

SRLG

SRLG は、一般的な原因ですべてに障害が発生する可能性のあるオブジェクトのグループです。たとえば、SRLG には、インターフェイスが共通のラインカードに属するすべての回線を含めることができます。

SRLG の作成

SRLG を作成するには、次の手順を実行します。

Procedure

-
- ステップ1** プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#)を参照）。[ネットワーク設計 (Network Design)]ページに表示されます。
- ステップ2** [オブジェクトの作成](#), on page 12 の手順に従って SRLG を作成します。この場合、オブジェクトは [SRLG] です。
- ステップ3** SRLG 名を入力します。
- ステップ4** [オブジェクトタイプ (Object type)] ドロップダウンリストから、SRLG に含めるオブジェクトのタイプを選択します。
- ステップ5** SRLG に含めるオブジェクトごとに、[含める (Included)] 列のチェックボックスをオンにします。
- ステップ6** [追加 (Add)] をクリックします。
-

回線専用の SRLG の作成

回線の SRLG を作成するには、次の手順を実行します。

Procedure

-
- ステップ1** プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#)を参照）。[ネットワーク設計 (Network Design)]ページに表示されます。
- ステップ2** 次のいずれかの方法を使用して、[回線の追加/編集 (Add/Edit Circuits)] ウィンドウを開きます。
- 新しい回線を作成する場合は、[オブジェクトの作成](#), on page 12 の手順に従います。この場合、オブジェクトは [回線 (Circuit)] です。
 - 選択した回線の SRLG を作成する場合は、[回線 (Circuits)] タブから 1 つ以上の回線を選択します。次に、[保存 ()] をクリックします。
- ステップ3** [SRLG] フィールドに関連付けられている [編集 (Edit)] ボタンをクリックします。



ステップ4 回線を1つ以上の既存のSRLGに関連付けるか、新しいSRLGを作成します。

回線と既存のSRLGの関連付け	新しいSRLGの作成
<p>a. 選択した回線を含めるSRLGごとに、チェックボックスをオンにします。</p> <p>b. [保存 (Save)] をクリックします。</p>	<p>a. をクリックします。</p> <p>b. SRLG名を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。</p>

ステップ5 [回線の追加または編集 (Add or Edit Circuit)] ウィンドウで、必要に応じて [追加 (Add)] または [保存 (Save)] をクリックします。

ポート、ポート回線、およびLAG

Cisco Crosswork Planningでは、ポートは物理インターフェイスです。Cisco Crosswork Planningポートとポート回路を使用すると、Link Aggregation Group (LAG) とポートチャネルをモデル化できます。

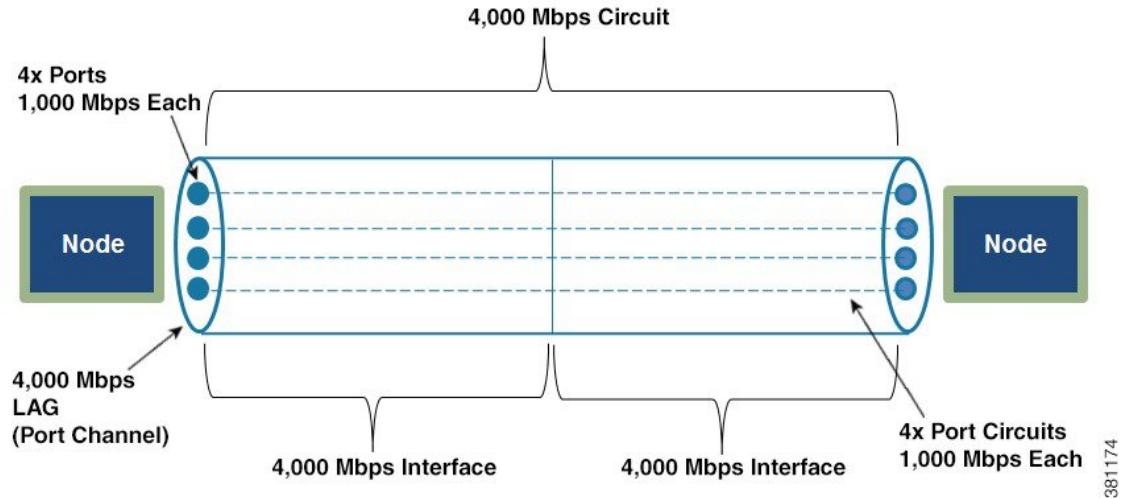
LAGは、単一の論理インターフェイスにバンドルされた物理ポートのグループです。LAGは、「バンドリング」または「トランкиング」とも呼ばれます。

デフォルトでは、[インターフェイス (Interfaces)] テーブルに一覧表示される各論理インターフェイスは単一の物理ポートに対応し、それらのポートを明示的にモデル化する必要はありません。例外は、論理インターフェイスが、複数の物理ポートをバンドルするLAGである場合です。この場合、物理ポートは [ポート (Ports)] テーブルに一覧表示されます。

ポート回線は、2つのポート間の接続です。ただし、ポートをポート回線で他のポートに接続する必要はありません。

ポートの作成

Figure 1: ポート、ポート回線、および **LAG**



381174

ポートの作成

ポートを作成するには、[オブジェクトの作成](#), on page 12の手順に従います。この場合、オブジェクトは[ポート (Port)]です。

次に、頻繁に使用されるフィールドの一部とその説明を示します。

- [名前 (Name)] : 必須のポート名。
- [サイトとノード (Site and Node)] : このポートが存在するサイトおよびノード。
- [インターフェイス (Interface)] : このポートがマッピングされる論理インターフェイス。このポートを使用してポート回線を作成するには、これを定義する必要があります。
- [キャパシティ (Capacity)] : このポートが伝送できる総トラフィック量。ドロップダウンリストには、最も広く使用されるキャパシティが選択肢として表示されます。

ポート回路の作成

ポート回線は、接続されたポートのペアを指定します。

- 両方のポートが存在し、回線によって接続されているインターフェイスにマッピングされている必要があります。
- ポート回線に2つのポートを選択する場合、一方がインターフェイスに割り当てられているときは、もう一方が同じ回線上のリモートインターフェイスに割り当てられる必要があることに注意してください。

ポートを作成してインターフェイスにマッピングするには、[ポートの作成](#), on page 10を参照してください。

ポート回線を作成するには、[オブジェクトの作成](#)、on page 12の手順に従います。この場合、オブジェクトは[ポート回線 (Port circuit)]です。

次に、必須フィールドとその説明を示します。

- [サイトとノード (Site and Node)]: ポートが存在するサイトおよびノード。
- [ポート (Port)]: ポートの名前。
- [キャパシティ (Capacity)]: このポート回線が伝送できるトラフィックの総量。ドロップダウンリストには、最も広く使用されるキャパシティが選択肢として表示されます。

LAG の作成

ポートを割り当てて、既存のインターフェイスの1つをLAGに含めるには、次の手順を実行します。インターフェイスにポートが含まれていない場合は、最初にポートを作成する必要があります ([ポートの作成](#)、on page 10を参照)。

Procedure

ステップ1 プランファイルを開きます ([プランファイルを開く](#)を参照)。[ネットワーク設計 (Network Design)]ページに表示されます。

ステップ2 右側にある[ネットワークサマリー (Network Summary)]パネルで、[ポート (Ports)]テーブルから、LAGに属するすべてのポートを選択します。共通のインターフェイスをフィルタ処理することで、これをするやすく実行できます。

ステップ3 ポートの1つを選択し、をクリックして[編集 (Edit)]ウィンドウを開きます。

ステップ4 これらのポートを含むインターフェイスを選択します。

ステップ5 [保存 (Save)]をクリックします。

LAG シミュレーションのプロパティの設定

各インターフェイスは、LAG (ポートチャネル) であると見なされます。動作していないポートが原因でキャパシティが過剰に失われた場合にLAG全体がダウンするように、LAGのプロパティを設定できます。

LAGのプロパティを設定するには、次の手順を実行します。

■ オブジェクトに関して実行できる主な操作

Procedure

ステップ1 インターフェイスまたは回線の [編集 (Edit)] ウィンドウを開きます（[オブジェクトの編集](#), on page 13 を参照）。

ステップ2 [詳細 (Advanced)] タブをクリックします。

ステップ3 [ポートチャネル (Port channel)] エリアで、回線上の一方または両方のインターフェイスについて、次のパラメータの一方または両方を設定します。

- a) [ポートの最小数 (Min number of ports)] フィールドに、LAG 回線を稼働状態にするためにアクティブであり、動作している必要があるポートの最小数を入力します。
- b) [最小キャパシティ (Min capacity)] フィールドに、LAG 回線を稼働状態にするために使用できる必要がある最小キャパシティを入力します。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

オブジェクトに関して実行できる主な操作

以下のセクションでは、プランオブジェクトに関して実行できる操作について説明します。

オブジェクトの作成

このトピックでは、プランファイルにオブジェクトを追加する方法について説明します。

Procedure

ステップ1 プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#) を参照）。[ネットワーク設計 (Network Design)] ページに表示されます。

ステップ2 次のいずれかの方法を使用してオブジェクトを作成します。

- ・ツールバーから、[アクション (Actions)] > [挿入 (Insert)] > [オブジェクト (Object)] の順に選択します。

- ・右側にある [ネットワークサマリー (Network Summary)] パネルで、[オブジェクト (Objects)] タブに移動し、 をクリックします。

必要な [オブジェクト (Objects)] タブは、[詳細 (More)] タブの下にある場合があります。表示されていない場合は、[テーブルの表示/非表示 (Show/hide tables)] アイコン (≡) をクリックし、関連する [オブジェクト (Object)] チェックボックスをオンにします。

詳細については、「[テーブルとオブジェクト選択の操作](#)」を参照してください。

ステップ3 次の必須詳細情報を入力します。プロパティはオブジェクトごとに異なります。

ステップ4 オブジェクトを追加します。

オブジェクトがプランファイルに追加されます。

オブジェクトの編集

プロットおよび関連するテーブル内のほとんどのオブジェクトには、[編集 (Edit)] ページを使用して管理できる一連のプロパティがあります。これらは、Cisco Crosswork Planning がオブジェクトを定義およびシミュレートするために使用するプロパティです。

このトピックでは、プランファイル内でオブジェクトを編集する方法について説明します。

手順

ステップ1 プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#)を参照）。[ネットワーク設計 (Network Design)] ページに表示されます。

ステップ2 右側にある[ネットワークサマリー (Network Summary)] パネルで、目的の[オブジェクト (Object)] タブに移動し、そのオブジェクトのプロパティを編集します。

ステップ3 単一のオブジェクトを編集するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 必要なオブジェクトを選択し、[] をクリックします。
- [アクション (Actions)] 列で、[...], プロパティを編集するオブジェクトの[編集 (Edit)] の順に選択します。

ステップ4 複数のオブジェクトを編集（一括編集）するには、必要なオブジェクト、[] の順に選択します。

(注)

一括編集操作の場合は、次を実行できます。

- すべてのオブジェクトを選択して編集する
- オブジェクトをフィルタ処理してから、それらを選択して編集するか、
- ネットワークプロットからオブジェクトを選択して編集する。

ステップ5 必要に応じて、プロパティを編集します。

ステップ6 変更内容を保存します。

選択したオブジェクトが新しいプロパティで更新されます。

オブジェクトの削除

このトピックでは、プランファイルからオブジェクトを削除する方法について説明します。

Procedure

ステップ1 プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#)を参照）。[ネットワーク設計（Network Design）]ページに表示されます。

ステップ2 右側にある[ネットワークサマリー（Network Summary）]パネルで、目的の[オブジェクト（Object）]タブに移動し、そのオブジェクトを削除します。

ステップ3 単一のオブジェクトを削除するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 必要なオブジェクトを選択し、をクリックします。
- [アクション（Actions）]列で、[...], 削除するオブジェクトの[削除（Delete）]の順に選択します。

ステップ4 複数のオブジェクトを削除（一括削除）するには、必要なオブジェクトを選択してをクリックします。

オブジェクトが正常に削除されたことを示すメッセージが表示されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。